

今春、医師免許を取得した研修医の初期研修が1日から県内でも始まった。研修病院15カ所の募集定員に対する実質充足率は約6割と、医師確保の厳しい状況は続いている。

2004年に導入された新医師臨床研修制度は、2年間で複数の診療科を経験する初期研修を義務化。研修先は研修医と病院双方の希望の組み合わせによる「マッチング」で決定する仕組みになった。

研修病院などをつくる
県医師臨床研修協議会
「新・鳴滝塾」(事務局)



心肺蘇生法を学ぶ研修生たち
＝長崎市坂本1丁目、長崎大学病院

医師初期研修スタート

実質充足率6割 確保厳しく

・長崎大学病院)による
と、県全体の募集定員1
53人に対し、昨秋のマ

ツチング結果では103
人(充足率67・3%)が
決まっていた。

しかし、卒業試験や国
家試験を経て、最終的に
採用されたのは94人(同
61・4%)。採用者の内
訳を見ると、本県出身者
は48人。長崎大出身は50
人だった。

4日は同協議会主催の
合同研修会が長崎大学病
院で開かれ、93人が参加。
患者・家族と向き合う際
の接遇や、心肺蘇生法な
ど1次救命講習に取り組
んだ。

「新しい病院をつくっ
ていく一員となればと
思って研修先を選んだ」
という長崎みなとメディ
カルセンター市民病院の
研修医、北野峻介さん
(27)は「病院によって設
備などが異なるし、いろ
んな人に会えて刺激にな
るので合同研修はありが
たい」と話していた。

(小出久)